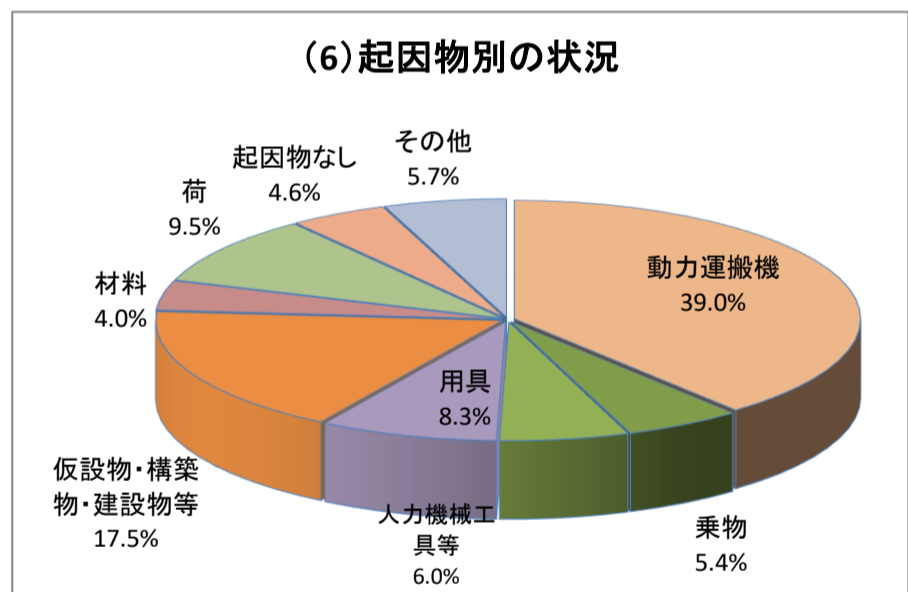
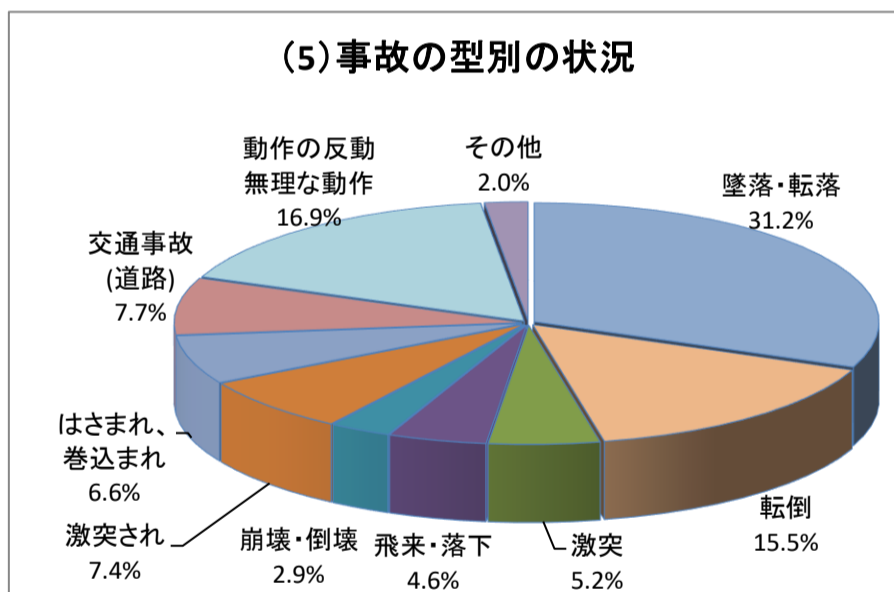
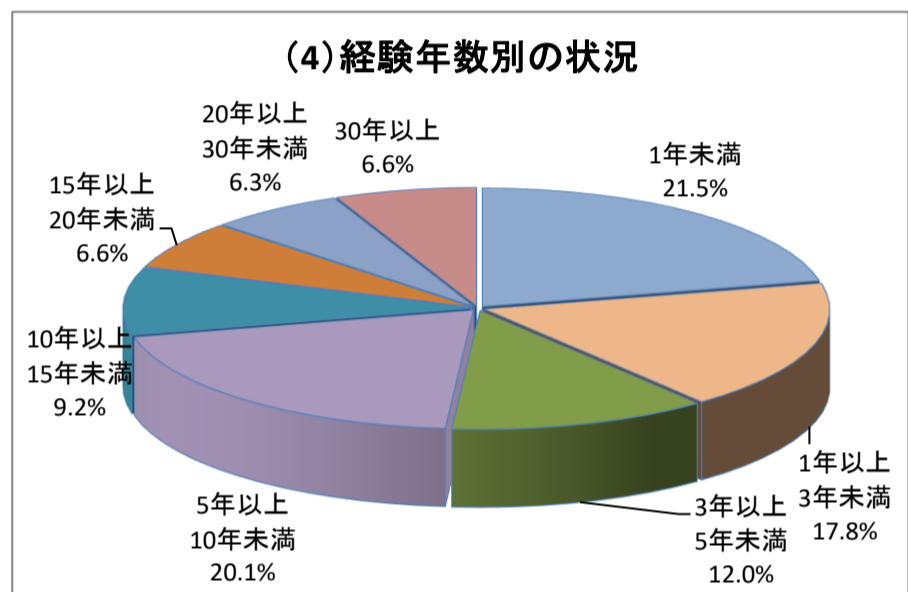
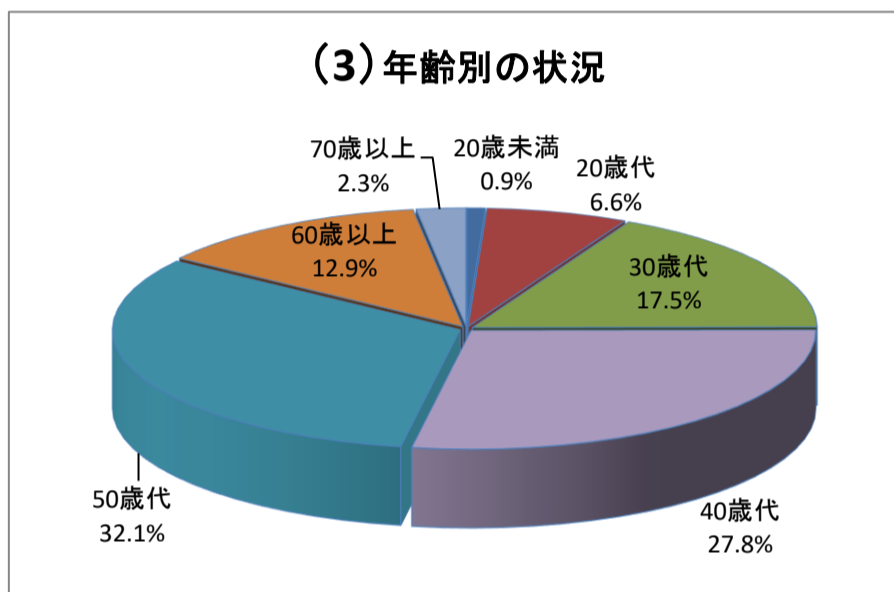
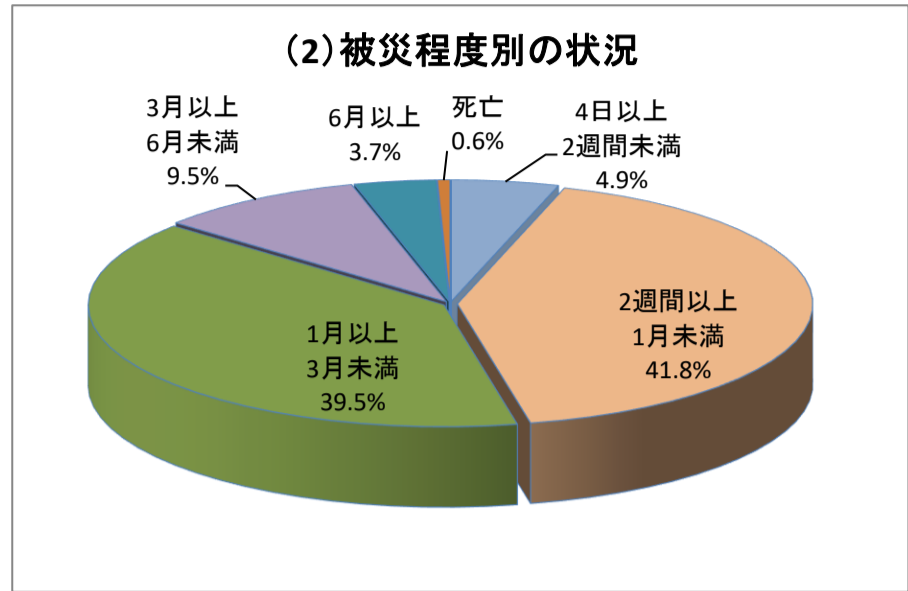
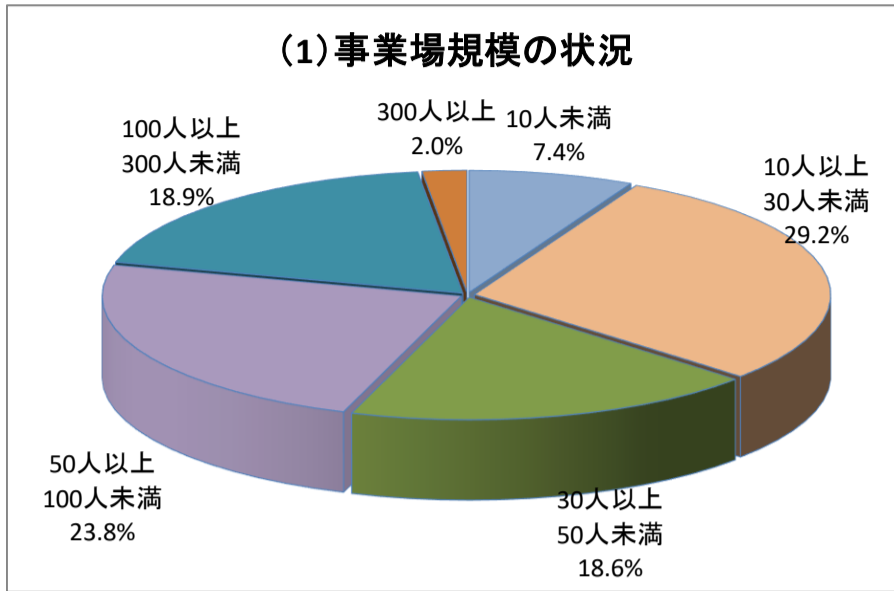


# 15.陸上貨物運送事業における労働災害発生状況(令和元年)

(陸上貨物運送事業:349人)



1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が29.2%と最も多く、次いで「50人以上100人未満」が23.8%、「30人以上50人未満」が18.6%の順となっている。「50人未満」の事業場が55.2%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「2週間以上1月未満」が41.8%と最も多く、次いで、「1月以上3月未満」の災害が39.5%となっている。休業日数「1月以上」の災害の割合は53.3%である。
3. 年齢別では、「50歳代」が32.1%と最も多く、次いで「40歳代」が27.8%の順となっている。
4. 経験年数別では、「1年未満」が21.5%と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が20.1%、「1年以上3年未満」が17.8%の順となっている。
5. 事故の型別では、「墜落・転落」が31.2%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が16.9%(このうち22.0%で腰痛を発症している。),"「転倒」が15.5%の順となっている。
6. 起因物別では、「動力運搬機」(トラック、フォークリフト等)が39.0%と最も多く、次いで「仮設物、建築物、構築物等」(通路、階段等)が17.5%、「荷」が9.5%の順となっている。